ＮＴＴドコモ ムービー

00:03

地球に生きる私たちの課題。

00:07

地球温暖化をどう食い止めるか？

00:12

持続可能な社会をどう実現するか？

00:17

ドコモグループは、

２０３０年には自社事業活動のカーボンニュートラル、

２０４０年にはサプライチェーンを含めた

ネットゼロをめざしています。

00:37

ドコモでは、蓄電池、ＥＶ、太陽光パネルなどの

エネルギーリソースを監視制御できる、

ＥＭＳ基盤を開発しています。

00:49 このＥＭＳ基盤から、私たちの取組みは広がっています。

00:55 **【グリーン基地局】**

基地局のCO_2排出量削減をめざしてはじまったのが

「グリーン基地局」です。

01:03 全国の通信を支えるドコモの基地局は、

年間約30億キロワットアワーを電力消費します。

01:12 グリーン基地局には、太陽光パネルが設置され、

太陽光パネルが発電した電気は、基地局に供給、

余剰（よじょう）電力は蓄電池に充電されます。

01:26 さらに、蓄電池に貯まった電気を夜間に放電することで、

基地局での再エネ活用を実現しています。

01:37 **【デマンドレスポンス】**

基地局のエネルギーリソースを活用した電力ビジネスとして、

デマンドレスポンスも実施しています。

01:45

デマンドレスポンスとは、

電力の需要と供給のバランスを整えるために、

需要家が消費電力を調整することです。

01:57

電力がひっ迫(ぱく)すると、節電要請を受けたドコモは、

ＥＭＳ基盤を通して、基地局やドコモショップの蓄電池を放電します。

02:09

反対に、電力が余っているときには、

蓄電池を充電するようにコントロールします。

02:19

【地域エネルギーマネジメント】

さらに、これらの電力制御技術を自治体へ適用したのが、

「地域エネルギーマネジメント」です。

02:28

自治体に災害用として配備されている蓄電池を、

ＥＭＳ基盤が監視制御し、

地域の災害対応力の向上をめざしています。

02:39

また、自治体の消費電力ピーク時に蓄電池を放電し、

電気料金を抑える制御などを実施しています。

02:51

【家庭のエネルギーマネジメント】

加えて、「家庭のエネルギーマネジメント」にも取組んでいます。

02:57

家庭のエネルギーマネジメントでは、

時間帯によって電気料金が変わる変動型電気料金を想定しており、

電気料金が高い時には、蓄電池から家庭へ電力を供給し、

安い時には、ＥＶを充電しながら、

消費電力がピークに達することがないように、蓄電池を放電させます。

03:24

また、行動変容による節電促進として、

ユーザーの過去の情報を元に、ユーザーへ節電を促す、
エージェントの研究開発も進めています。

03:38

【電力需要予測】

未来を含めたエネルギーマネジメントを見据え、
電力需要予測にも取組んでいます。

03:45

天候情報や過去の消費電力データ、
スマホから取得した人流データをもとに、
ＥＭＳ基盤が未来の電力需要を予測する取組みも
進めています。

04:00

ＥＭＳ基盤によって、社内外のエネルギーリソースを束ね、
社会全体のエネルギーマネジメントをめざします。